

令和6年7月 発行
燕市吉田地区地域包括支援センター
〒959-0242 燕市吉田大保町 25番 15号
☎ 0256-94-7676

通信 第21号

令和6年度 第1回 吉田地区地域ケア会議の報告

令和6年5月29日に『住み慣れた地域でその人らしく、自立した生活を送るには ～認知症に関する居場所を考える～』というテーマで、吉田地区の地域ケア会議を開催しました。ご参加の皆様からはたくさんの貴重なご意見等を頂戴することができました。ご協力ありがとうございました。以下、会議の概要をご報告いたします。



【出席団体】(順不同・敬称略)

《地域》

吉田地区民生委員児童委員協議会、学校町みんなの茶の間、粟生津地区協議会、吉田地区まちづくり協議会、燕市シルバー人材センター

《事業所》

わんだふるらいふ、デイサービスセンター太陽の園、地域生活支援センターやすらぎ、相談支援事業所ひまわり

《調剤薬局》

アイン薬局吉田店、さくら薬局燕吉田店、クローバー調剤薬局、東町調剤薬局、しなの薬局吉田店、吉田東薬局 共創未来吉田南薬局

《居宅介護支援事業所・小規模多機能センター》

ケアマネつばめ、エバーグリーン、吉田愛宕の園、ツクイ吉田宮小路、ラビット花はな、ケアサポートひまわりの園、あさひ、さわらび、ひまわり

《協力機関》

燕市社会福祉協議会、燕市認知症地域支援推進員、燕市長寿福祉課地域支援相談チーム、燕・弥彦医療介護センター、燕市地域包括支援センターさわたり、燕市吉田地区地域包括支援センター 県立吉田病院附属看護専門学校

1. 前回の地域ケア会議に関する報告

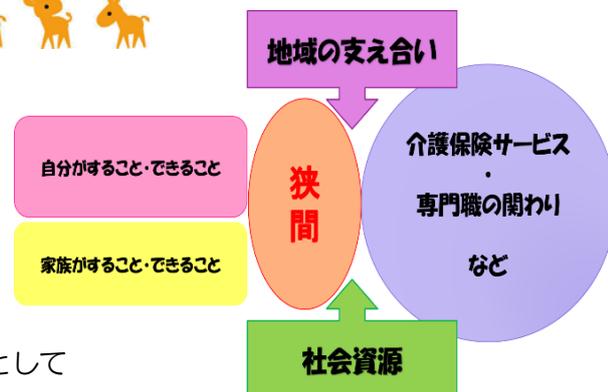


前回の地域ケア会議のテーマは『**狭間の支援**』。

近頃の総合相談の内容として、地域住民同士の支えあいや既存のサービス（介護保険サービス等）社会資源だけでは支援が難しい事柄（いわゆる『狭間』）を誰かが支援しないと、生活が成り立たないという相談が増え、本来は自分や家族、親族で行うべきことも、高齢化や世帯構成の変化、多様な価値観などによって支えあいや公的サービス、制度の狭間として課題となっています。

前回の会議では、狭間の支援から見えた課題と今後の取り組みについて話し合いました。

受診・通院や服薬に関すること、身寄りなしに関すること、空き家問題など地域全体で検討が必要なことや、ごみ出しや除雪など、身近な生活に関わることが挙げられました。住民同士の支え合いが狭間を埋めていることもわかりました。地域住民の支え合い強化のためにできることを、支え合い推進会議でも検討しました。会議内容の詳細については、「ひまわり通信 第20号」をご参照ください。



2. 今回の地域ケア会議

令和5年7月に開催した地域ケア会議で「認知症」について話し合い、主に以下の課題が見えてきました。

- ①認知症当事者が増加している中で、認知症の正しい知識の普及が不足。
- ②認知症について学ぶ場所や、認知症サポーター養成講座の開催が少ない。
- ③認知症サポーター等の活躍の場が少ない。
(コロナ前は施設のボランティアの受け入れもあったが、現在は再開できていない。)
- ④当事者や家族が過ごせる居場所が少ない。コロナ前は認知症カフェを実施していたが、現在は実施できていない。

また、2030年には認知症推計値は523万人とされ、65歳以上の高齢者の4~5人に1人にあたります。

このように急速な高齢化で認知症の人が増加している現状等を鑑み、わが国では2024年1月1日に『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』が制定され、認知症の人を含めた国民ひとりひとりが支え合いながら共生する活力ある社会にむけ進んでいます。燕市でも、第9期介護保険事業計画の重点施策にも認知症施策の推進が挙げられています。

そんな中、吉田地区では認知症の方や認知症予防活動を支援していくために、幅広い年齢層の住民が認知症を気軽に知ることができ、認知症の方と触れ合う機会を、地域の中で作っていくことが必要です。しかし、現在の吉田地区には、コロナ感染の流行以降、認知症に関する居場所づくりが停滞しています。地域住民と関係機関が協力しあい、認知症の理解普及の場、当事者や家族がつどえる場、認知症サポーターの活動の場などを地域の社会資源を活用しながら作る必要があります。

今回の地域ケア会議では、全国の先行事例を参考に、吉田地区の各エリアで話し合いを行い、エリアの地域性にあった場づくりについて話し合いました。

《全国で行われている取り組み》

引用:認知症とともに生きるまち大賞 (npwo.or.jp)



認知症とともに 生きるまち大賞

チーム上京!

自宅ガレージを開放し、地域活動の新たな拠点に!



チームFCいわくら

当事者を中心に地域での社会参加の場を提供!

グループワーク①

当事者や家族や認知症サポーター等の目線で利用したいと思える場について考える

全国の先行事例の動画を通し自分たちの地区でできる場づくりについて意見交換をしました。(一部抜粋)

イベント性のある場

多世代交流の場

サポーターや意欲のある方に活躍してもらう場

食を通じて交流ができる場

年齢・障がい・病気など関係なく集まれる場

やりたいことが叶う場

イベント参加や店舗協力を得てイートインスペースの有効活用



上記以外にも、様々なアイデアにあふれていました。

グループワーク②

施設、サロン、自治会、場所、認知症サポーター、ボランティア、地域住民などの地域の社会資源を活用した場づくりのためにできることは何かを考える

粟生津地区・吉田北地区・吉田南地区・吉田地区と薬剤師などの専門職チームで、各地区の特性を生かした場づくりのための大まかな計画を話し合いました。できない理由ではなく、実行するために不足していることや必要なことをみなさんで出し合いました。地区ごとにご紹介します☆（順不同）

《粟生津地区》

みなさんの地域で実現できそうなテーマ	みなさんの地域で実現するためにできること！ やりたいこと！	みなさんの地域で実現するために足りないことは？なにがあげられる？
<p>高齢者と子供が触れ合える機会 (小学校の運動会に高齢者や施設も参加する)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域から学校への働きかけはできる。 施設は高齢者を連れていくことや介助はできる。現在も見学は実施している。 まずは地域主体でやってみる。「支えあいピック（三世代運動会）」を企画している。当事者は対象としていないが、まずは地域のつながりを作ることで相談しやすい地域（環境）をつくる。その上でニーズの発見や対応を考えていく。 その他、下粟生津の祭りや防災訓練などを通じて、地域のつながりを強化していく。防災訓練は学校、地域、福祉施設が参加しており、できているため、継続していく。 上記のものであれば施設も住民として誘ってほしい。顔の見える関係づくりにもなる。（事業所より） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理解。（コロナの影響で1日の運動会が半日になった。） 認知症当事者の役割が必要。（メダルを渡すなど）

《吉田北地区》

みなさんの地域で実現できそうなテーマ	みなさんの地域で実現するためにできること！ やりたいこと！	みなさんの地域で実現するために足りないことは？なにがあげられる？
<p>オレンジングカフェ等の集いの場が市役所ではなく、もっと地域で開催されると良い</p> <p>日常生活のなかになじんでいる場所が集いの場となるとよい</p>	<p><u>小規模多機能センターの視点から</u> 施設の隣にある体育館の会議室等を使えるかもしれない。いきなり大きなことはできないが、まずは顔を合わせる機会や小さな勉強会みたいなことはできる。来ることが難しい方は施設の送迎車を活用、送迎もできる可能性あり。</p> <p><u>社協の視点から</u> サロンの参加者や運営者で同じような思いを持つ方同士をつなぐことができる。居場所づくりの相談に乗ったり、情報提供できる。</p> <p><u>ケアマネの視点から</u> (居場所や集える場があれば)担当の利用者やその家族へ情報提供ができる。</p> <p><u>事業所の視点から</u> すでに事業所として地域向けに介護予防や栄養についての講座を行なっているため、認知症をテーマにしたり、カフェのようなことができるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望があれば、ボランティアの受け入れができるかもしれない。実際に施設へ足を運んでもらい認知症の方々と話をするだけでも、認知症の理解が深まるかもしれない。 <p><u>その他</u> 高齢者だけでなく、子供など世代を超えた集いの場があると良い。新しく立ち上げるのは大変なので、児童クラブや学童といった既存の場を活用できると良い。 (ひまわりに児童クラブが併設され、そのことを理由にひまわりの入所を希望された方がおり、とても良いことだと感じた)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設には、人が集えるスペースがない。（場所の問題） コロナ禍以降ボランティアの受け入れができていない。 集いの場ではなくとも、日常のなかで地域とつながろうという意識を職員がもつことも大事。

《吉田南地区》

みなさんの地域で実現できそうなテーマ	みなさんの地域で実現するためにできること！ やりたいこと！	みなさんの地域で実現するために足りないことは？なにがあげられる？
<p>多世代で交流出来る居場所作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> しゃべれる場 やりたいことを選べる 昔のことを思い出せる（回想法） 当事者の方たちと一緒に交流出来る 好きな時に寄ってもらえる 役割が持てるような居場所に 東栄町でやっている子ども食堂を障がいのある人、高齢者誰でも参加OKにする 	<ul style="list-style-type: none"> 社協にお願いして補助金を出してもらおう スタッフが担える人（参加者にも役割を担ってもらおう、若い力も欲しい） 当事者が出来ること役割を上手く振り分けられるスタッフがいると良い（調理など） 居場所への移動手段（デイスサービスなどの空いている時間に車を使わせてもらう）

《吉田地区》

みなさんの地域で実現できそうなテーマ	みなさんの地域で実現するためにできること！ やりたいこと！	みなさんの地域で実現するために足りないことは？なにがあげられる？
<p>みんなの縁側</p> <p>→自宅の縁側を利用して開催しているところがあり、同じように開催したい。たくさんの人に参加してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビール箱4箱・お茶くらいは準備できる。(まち協からもお金を出せるかも) ・縁台(板)の準備 ・おいしいもの、お菓子、おもちゃ、ゲームなどで人が集まりやすい環境を作る(「行きたいな」と思ってもらえる工夫) ・枝豆や野菜などを持ち寄る →野菜を無駄にしたいくない人とほしい人が、多少のお金のやり取りで売買できるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まるための目玉 ・近所の人→広い地域の人にまで拡大するためのノウハウ ・認知症の人にも来てもらいたい →どう接していけばよいか知る必要がある ・仲間づくりの意識を浸透させること →元氣なうちから「もしものことを考えられるといい。
<p>シルバー食堂(仮)</p>	<p>場所：吉田あふれあいセンター 人：主催側 自治会長 社協 吉田地区 CM 障害相談支援 保健推進委員 参加してもらいたい人：吉田小学校区の住民すべての人 何する：笹団子、ちまき、カレー 施設設備を使ってできること カラオケ、レクリエーション、菜園、花壇 頻度：月1回 土日の昼間 参加料：100円</p> 	<p>財源：まち協からクラッドファンディング 機材：カラオケ、レク道具 ※ギターが胸を熱くするので生演奏の協力を得る 企画：ごはんメインで作ってくれる人 ・食推の人に協力依頼 ・参加する人が自分たちで作る 開催連絡：学校の協力で保護者にメールしてもらう 会場までの足： かわいい送迎バス子供が喜ぶ</p>

《専門職グループ》

みなさんの地域で実現できそうなテーマ	みなさんの地域で実現するためにできること！ やりたいこと！	みなさんの地域で実現するために足りないことは？なにがあげられる？
<p>誰でも集まりやすい集会所 →地域住民の繋がり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間の的なものを週末など色々な世代が参加出来るような日程に開催する ・認サボや地域の保健委員の力を借りる ・「お楽しみイベント」そば打ち、ゲーム大会、カラオケ大会、料理教室などの目的を持って楽しめる工夫。 ・子どもの力を借りる。子どもにはお菓子やスタンプカードなど参加してもらえる工夫を。子どもが参加することで幅広い世代の交流を。子どもの顔を見ると認知症の方も元気になる！ ・子どもの登下校の見守りを認知症の方や高齢者の方の力も借りておこない、子どもたちと顔なじみになるきっかけを持つことで子どもやその親世代などを地域の集まりに引っ張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知の方法に課題 ⇒声を掛ける人(子ども、認サボ、保健委員、組長、隣組)メールなども活用。 ・ただ集まってお茶を飲むだけでなく目的をはっきりすることで周知もしやすい ・会場 ⇒集会所が小さい場合は公民館など無料で市が貸し出してほしい
<p>「大先輩のお料理教室」料理だけでなくてもOK</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理できる場所、人 ・子供のPTAを巻き込んで、子供に教えてもらう。 ・季節に合ったメニュー：草団子とか… ・子供も楽しめるゲームとかボランティアさんに協力してもらう。 ・月に1回開催を目指したい。 <p>目指せ！ 認知症とともに 生きるまち大賞☆</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・名人については自治会長なら知っているかも！集会場はどうか？ ・PTA会長に相談！ ・参加費と地域の会費 ・草団子の達人がいたとして…その人はちゃんと来てくれる？体調は大丈夫？⇒草団子チームで何名か呼ぶ ・怪我のリスク ・材料の準備、参加人数の把握など、認知症サポーターを募れるか？

3. まとめ

今回は各地区の特性を生かした話し合いが活発に行われました。地域の方々も事業所も専門職も、誰もが気軽に集まれる場の必要性にあらためて気づいたのではないのでしょうか。既存・新規問わず、地域に様々な「居場所」が増えることで、認知症の方やその家族だけでなく、高齢者のみなさんにとってもメリットがたくさんあります。気軽に立ちよれる場があることで、仲間や居場所ができ閉じこもりを防ぎます。参加することによって、楽しみや生きがいを見出し、生活にメリハリができ社会参加への意欲が高まります。みんなで励まし合ったり気にかけていたりすることで、元氣であることへの関心が高まります。その結果、認知症予防・介護予防につながっていきます。もちろん、高齢者だけでなく、子どもなど多世代へのメリットもたくさんあります。

吉田地区にもそんな「居場所」が増え、認知症になってもならなくても、介護が必要になっても、元氣な時も安心して暮らせる地域をつくっていきましょう。「目指せ！年度内の実行」を目標に、各地区で実施に向けて検討していきます。まずは、コロナで停滞していた、地域と福祉のつながりの復活のために、事業所のボランティアの受け入れも随時再開できるよう働きかけていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。